

「特別対談」

知られざる「古代吉備」の魅力

かつての吉備国、岡山県にある造山古墳は、日本最大の大仙陵古墳（大阪府堺市）よりも早い時期に築かれており、当時は最大級である。なぜ吉備にこの規模の古墳が存在するのか、その理由や背景を関西国際大学 宗田好史教授と岡山市長・大森雅夫氏が語り合った。

取材・文／上永哲矢 写真／大塚雄太

大森雅夫
Omori Masao
〔岡山市長〕

宗田好史
Yoshitomi Muneta
〔関西国際大学教授〕



歴史の陰に葬られた真実を よみがえらせるには 旧来の視点では難しい

岡山市長／大森雅夫

おおもり まさお／1954年、岡山市生まれ。1977年に建設省に入省後、内閣、国土交通省などで様々な役職を歴任。2013年に故郷・岡山市に戻り市長に。2021年に3選し、岡山市のために尽力している。



被葬者とヤマトの関係は

——令和4年（2022）、堺市で「全国古墳サミット」が開かれ、宗田先生がコーディネーターを務められ、大森市長はパネリストとして招かれました。古代史への注目度が高まるなか、かつての吉備国・岡山にある造山古墳群とは何なのか。なぜ、これらの大きな古墳が吉備に築かれたとお考えでしょうか？

大森 古墳とは何かを考えたとき、やはりそれは地域の支配者の埋葬施設であり、その規模が彼らの「力」を示すものと思います。その観点からいうと、造山古墳は5世紀の初頭までにつくられた古墳としては全国最大級の全長350m、同時代に造られた履中天皇陵古墳（大阪府堺市・365m）とほぼ同じ大きさを誇ります。この二つは全国1、2位の大仙陵古墳（同 堺市・525m）、誉田御廟山古墳（同 羽曳野市・425m）より早い時期に築かれており、当時全国最大級でした。

宗田 大仙陵古墳と誉田御廟山古墳は宮内庁から天皇陵に治定され、立ち入りが制限されていますが、造山古墳は天皇陵に数えられていないため、立ち入ることのできる古墳として最も大きく注目すべき古墳ですね。大森 全長300mを超えるものを巨大古墳といいますが、それらが築かれたのは全国でも吉備とヤマト（大阪・奈良）だけで構造も似ています。つまり造山古墳の被葬者はヤマトと良好で対等な関係にあった吉備の豪

族、相当な権力を持っていたのではないかと考えられるのです。『三国志』（魏志倭人伝）に記された3世紀の邪馬台国の時代、すでに吉備には日本列島最大の王墓・楯築墳丘墓（倉敷市）が築かれていました。岡山市にある浦間茶臼山古墳（全長138m）は、卑弥呼の墓ともいわれる箸墓古墳（奈良県）と同じ形で大きさがちょうど約二分の一の規模。『魏志倭人伝』に邪馬台国7万戸、投馬国5万戸とありますが、投馬国を吉備と仮定すると、そうした関係性も見えてくるように思います。

宗田 吉備はヤマトと距離も近く密接に連動していたでしょうね。5世紀、大陸や朝鮮半島から来た渡来人たちが鉄の技術をもたらしました。彼らは九州と畿内を瀬戸内海経由で往来していたとみられ、その海に面した吉備には広い平野があり、定住にも適しています。縄文や弥生のころからの先住の渡来人がいた吉備に、さらに新しく来る渡来人が技術や文化をもたらす。ヤマト王権とともに技術革新が繰り返され、巨大古墳を築く経済力



日本古代史の謎を解き 明かす、古墳はそのカギ 成果はこれからという段階

関西国際大学教授／宗田好史

むねた よしふみ／1956年、静岡県浜松市生まれ。都市建築学者。京都府立大学名誉教授。現、関西国際大学教授。主な著書に『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』（学芸出版社）。

や技術が醸成されました。
大森 造山古墳の陪塚のひとつ千足古墳の玄室から、熊本産の石障が見つかっています。部屋自体の造りも九州の古墳とよく似ていて、技術交流の跡が見られます。同じく陪塚の榊山古墳からは朝鮮半島から直輸入された馬形帯鉤（ベルトのバックル）も出ています。百濟人などが吉備の政権をサポートしていた姿も浮かび上がってきますね。

宗田 たとえば、イタリアには「ローマの七丘」という、その七部族の長老たちが集まって元老院として政治を支え、ローマ帝国を築いた歴史があります。日本も吉備や九州などの部族によってグローバルな集権国家をつつていったのでしょね。ヤマト王権の力だけでは東日本も制御できなかったでしょうし、朝鮮半島を凌ぐほどの発展も望めなかつたと考えられます。

日本古代史に一石を投ず 造山古墳の重要性と今後

——それほど絶大な勢力を誇った吉備の権力者の記録、史料が少ないのはなぜでしょうか？

大森 奈良時代に、藤原不比等は唐・新羅連合軍の侵攻を恐れ、対抗策の一つとして『日本書紀』を編纂しました。そこでのポイントの一つが天皇系譜の一本化です。それ故、倭国にヤマトと吉備の二つの大きな勢力が並存していたとは書けなかったのではないのでしょうか。また、吉備と蘇我氏は密接な関係でした。蘇我氏の勢力を一掃した藤原氏は、吉備を単なる地方豪族の立

場に落としたかたのではないのでしょうか。

宗田 地方政権の力は段階的、平和的にヤマトに取り込まれていったとみられます。瀬戸内海の内海運の要地である岡山の歴史は古代史においても大きな意味を持つでしょうね。後世の戦国の宇喜多氏や江戸時代の池田氏を見ても、備前は中央政権から重視されていました。現代の地方衰退と東京一極集中の解消の観点から地方分権を考える上でも目を向けるべきでしょう。

大森 私は国の役人時代、首都機能企画課長などをしてきたこともあり、いざ東京周辺で大きな災害があったときどうなるかというリスクを考えます。いくつかの都市でリスク分散する必要性を考えるのは重要なことかと思えます。

宗田 例として、イタリアはローマのイメージが強いと思いますが、南部にあるシチリア、北部のミラノも非常に魅力的な地域で観光地として人気ですが、それらを観ることが国全体の歴史を知ることにつながります。日本でも東京や大阪周辺だけではなく、



DATA 【所在地】岡山市北区新庄下 【墳形・規模】前方後円墳・墳長350m 【時代】古墳時代中期(5世紀前半)
JR桃太郎線「備中高松駅」から タクシーで10分



岡山市造山古墳

ビジターセンター

「造山古墳」と日本遺産『桃太郎伝説』の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～や造山古墳周辺の情報を提供。

住所：岡山県岡山市北区新庄下789 営業時間：10:00～15:00 定休日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

いろいろな地方都市を見ることができ、もともと古代史への理解が深まるでしょう。飛鳥・藤原の宮都を世界遺産に推薦することが決まり、古代史の謎を解く、造山古墳群は非常に重要な拠点になります。

大森 『日本書紀』の陰に葬られた歴史をよみがえらせるには、

机上の学問や旧来の視点ではむずかしい。そうした意図もあり、ここ造山古墳群では地元の方やボランティアの方々による「造山古墳蘇生会」というグループが活発に活動されています。連日、全国から大勢の子どもたちが見学に来てくれているんです。

宗田 日本古代史の謎を解き明かすためにはこれまでの先入観を払って取り組む必要があるでしょう。古墳はそのカギを握る存在ですが、学術的な研究や調査が本格化してまだ80年。これからという段階ですが、成果は着々と積み上げられています。百舌鳥古市古墳群は、はじめ全国的にその機運が高まるなか、さらに広げていきたいと思っています。

大森 ヤマト王権というと畿内だけの限定的な勢力をイメージされがちですが、実際はもともと開かれた存在で、ここ吉備もそれと密接に連動し、吉備とヤマトの「二頭政治」で歴史を育んでいました。造山古墳や周辺古墳の調査でその証明につながる新たな発見があるかもしれません。「ヤマト」の定義にもメスを入れていけたらと考えています。